

Doors open 10:00

Kyoto Kanze Regular Performances 25 Sun May 2025 11:00 a.m.-4:00 p.m.

# 京都観世会五月例会

令和7年5月25日(日) 午前11時 開演 (午前10時開場)

〈能〉

Koyamonogurui

高野物狂

井上 裕久

〈狂言〉

Dongonso

鈍根草

小笠原由禰

〈能〉

Hanagatami

花 筐 筐之伝

分林道治

〈能〉

Zegai

善 界 黒頭

味方 團



## TICKETS 4/110:00 発売

一般前売指定席券(1階) ¥8,500  
Advance reserved seat (1st floor)

一般前売自由席券 ¥6,500  
Advance non-reserved seat

一般当日券(自由席) ¥7,000  
Same-day (Non-reserved seat)

学生券(2階自由席) ¥3,000  
Student (2nd floor)

※通信講座受講生、放送大学、  
老人大学は一般料金です。

WEB予約で座席指定できます。  
電子チケット  も  
選択できます。



チケット販売

お問合せ・お申込み  
京都観世会館

Tel: 075-771-6114

<http://www.kyoto-kanze.jp>

〒606-8344

京都市左京区岡崎円勝寺町 44  
(東山仁王門東入)



京都観世会館HP

Noh Play Theater  
Kyoto Kanze Kaikan

会場 **京都観世会館**



地下鉄東西線「東山駅」①番出口から徒歩約5分  
京都市バス「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車  
徒歩約3分  
「東山仁王門」下車徒歩約5分  
東隣に有料駐車場(約20台)がございます。



日本語 Map



English Map

# 京都観世会五月例会

## 後見・地謡

(能)

平松春満 田茂井律朗

高師四郎 井上裕久

### 高野物狂

高野山ノ僧 福王和幸

從僧 矢野昌平

大鼓 河村眞之介

井上裕之真

宮川卓也

浦部幸裕

家人 小笠原由嗣

大鼓 河村眞之介

市和

杉浦豊彦

樹下千慧

浦田保親

(能)

大鼓 河村眞之介

吉兵衛

苗杉

市和

梅田嘉宏

越賀隆之

(狂言)

### 鈍根草

太郎冠者 小笠原由嗣

主人 能村晶人

後見 安田典幸

休憩二十分

(一時頃)

継体天皇 橋本和樹

侍女 橋本忠樹

### 花筐

照日ノ前分 林道治

供奉官 人宝生欣哉

使者 小林 努

大鼓 石井景之

片山伸吾

浅井風矢

大江信行

休憩十五分

(仕舞)

羽衣 キリ

吉浪壽晃

鶴尾世志子

塚本和雄

橋本充基

浦田保浩

(三時頃)

(能)

太郎坊 大江広祐

善界 味方 團

### 善界

比叡山ノ僧 正原 大

問

從僧 原 陸

大鼓 河村裕一郎

太鼓 前川光範

橋本光史

河村和晃

松井美樹

問

從僧 有松遼一

大鼓 河村裕一郎

太鼓 前川光範

橋本光史

河村和晃

松井美樹

附祝言

(終了予定 四時過ぎ)

## 解説

### 高野物狂

常陸国の平松殿が亡くなり、家臣の高師四郎が平松の子の春満を撫育していた。主君の忌日に菩提寺に詣でる四郎に、家人が春満の置き手紙を届けに来る。そこには春満の出家の覚悟が記されていた。四郎はともかくも若君の後を追ひ、常陸の国を後にする。

(中入)

場面は紀州、高野山に変わる。高野山の僧が、近ごろ師弟の契約をした春満を伴って、三結の松へと出掛けた。そこへ物狂となった高師四郎が文符を肩に、幼い主君を訪ねてやってくる。僧は、物狂はこの高野の山内には入れぬと制した。四郎は弘法大師の例を引いて、僧と問答をはじめ、そして高野の縁起を語る。また静謐な高野の内に声明の聲に触れることの境地を語り、舞い狂った。やがて主従は再会し、春満は家を継ぐべく、山をおりる。流派によって、詞章や演出の違いが多く見られる曲である。例えば観世流では、僧形の子方を稚児姿とし、

世阿弥の原作では幼い主君に従って、四郎も元結を切つて仏門に入るところを、高師の説得のもとに家を継ぐことになっている。

花筐 籠之伝

味野の男大迹の皇子に愛されていた照日のものと、皇子よりの使いが立つ。即位のため、にわかの上洛、別れに玉章(文)と花の形は文を残し置くという。照日は文を読み、形見を抱いて里へ帰る。

(中入)

皇子は継体天皇となる。秋の紅葉の御幸の道に、狂女が現れる。帝を慕い、狂いに打ち落とした花筐をまた抱き上げ、狂女が狂い舞う。またわが身を李夫人に譬え、漢王の別れの悲しさを語り、恋慕の深さを訴える。やがて天皇は、狂女の花筐を見て照日と気づき、再び仕えることを許して還幸となる。帝をひたすら恋慕う照日の想いが美しい。武烈王朝の崩壊と、新興の継体王朝の成立は、古代史上の重要な画期である。能は一人の女性の恋慕を通して描く。

善界 黒頭

唐土の天狗の首領善界坊は、すでに本国では慢心の者達を天狗の道に誘いこんでしまったので、次は日本の山伏を妨げようと考え、山伏姿となつて愛宕山の太郎坊という天狗を尋ねる。太郎坊は善界坊の魂胆を聞き、同意し、まず比叡山の様子うかがうことにする。しかし不動明王は悪魔を敵う威力を持つていたので不安にもなるが、二人の天狗は比叡山へと出かけて行く。

(中入)

比叡山飯室の僧正が從僧をつれて車で都へ急いでいると、急に大風が吹き、雷鳴が轟く。驚いているところへ善界坊が天狗の姿で出現し、僧正に言葉をかけ、邪法を唱えながら車の長柄をつかんで僧正を魔道に誘引しようとする。僧正が不動明王に祈ると、不動明王が二童子や十二天を従えて現われた上、山王権現をはじめ男山、松山の神々が現われて袖風によつて善界坊は吹きはらわれ、力尽きて今後は日本には来ないという声だけを残して雲の中へ消えて行くのであった。

## 次回予告

### 京都観世会六月例会

令和7年6月22日(日)

午前11時開演

(能) 白楽天

橋本擴三郎

(狂言) 太刀奪

茂山忠三郎

(能) 隅田川

観世鏡之丞

(能) 舍利

河村和貴

## 【表紙写真】

《花筐》片山幽雪

金の星渡辺写真場撮影

【お知らせ】  
今後の状況の変化により、当日券販売の有無や催し物の内容等が変更となる場合がございます。あらかじめご了承ください。  
「字幕解説サービス」専用端末は千円(税込)にて貸出いたします。